

Vol.033

福島市議会真政会報
— 平成25年1月 —

真政会報

真政会要綱

私たちは地方自治の信念に則り行政に対する監視と提言を怠ることなく、常に市民と行政のパイプ役として「市民」議会として「市当局」との三位一体を旨とし、市民福祉の向上と地域の振興・発展、真の市政伸展に邁進することを誓う！



菅田 憲孝

二階堂 武文

萩原 太郎

半沢 正典

小松 良行

白川 敏明

田畝 誠司

黒沢 仁

真田 広志

渡辺 敏彦

中野 哲郎

小島 衛

穴戸 一照

尾形 武

来年度予算編成にあたって、当会派としてその理念を「復興二年目として復興計画の着実な進展を図ると共に新たな諸課題についても柔軟に対応し、傷つけられた『福島ブランド』の回復を図り、市民の誇りを取り戻し、その姿を世界に発信する年となるよう」求め、その実現の為、予算編成にあたっては当会派で掲げた14の基本政策に合わせ88の具体的な要望施策を十分に反映されるよう申し入れを行いました。当会派としても一日でも早い復興に向け、会派網

「平成25年度予算編成に関する要望書」を市長に提出

領で唱っている通り、常に市民と行政のパイプ役として市民に寄り添い、ニーズを的確に捉え、「市民」「議会」「行政」との三位一体を旨に、所属議員14名という最大会派としての自覚と責任の下、会派一丸となり議会をリードし市政進展に邁進して参る覚悟です。



12月定例会は、12月4日に開会、過去最大級となる一般会計補正予算199億1,299万円(内災害関連173億6,043万円余)の審議・条例改正・請願・陳情・意見書について審査を行い21日に閉会しました。補正予算の主な内容は、ふるさと除染実施事業費・樹園地表土除染実施事業費・損壊家屋解体処理費などの除染・震災対応であります。また、一般質問にて当会派からは、穴戸一照議員、尾形武議員、真

田広志議員、白川敏明議員、田畝誠司議員の順に質問に立ち、それぞれの立場から震災対応を中心に市政各般にわたり提言を含め質し、市政、市民にとって建設的な答弁を導き出しました(質疑の内容は後掲)。最終日には、当会派発議による「東京電力福島第一原子力における避難区域外居住者及び避難者に対する追加賠償の拡充・延長を求める意見書」を提出し、全会派一致で可決され関係機関へ提出致しました。

平成24年度12月市議会定例会の報告

会長挨拶

復興が実感出来る一年となるよう頑張ります！



中野 哲郎

市民の皆様には、新春を健やかに迎えのことと存じます。また、本年新たに成人となられる皆様には心よりお慶び申し上げます。

昨年は、復興に向け確かな一歩を歩み出しましたが、迎えました平成25年は、「癸巳」年であり、物事が順調に進む年である

といわれています。『除染なくして福島の復興なし』の言葉通り、放射能災害よりの原状復旧作業であり、莫大な「金・時間・人手」を要する除染をスピードアップし、福島市の明るい未来が展望できるよう、発災前の福島市の姿に『新たな魅力・価値』を付加する復興事業を推進し、真の福島市の再生を図っていかねばなりません。我々真政会一同は、本年を福島再生に向けての飛躍の年と位置付け、市民の皆様が、復興を実感できる年となるよう頑張っておりますので、倍旧のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

各常任委員会の報告

総務

【中野・小松・白川・田畝】

当委員会所管の主な内容は次のとおりです。

【総務部】本市職員の給与改定については、国において人事院勧告を実施しない旨の閣議決定があり、本県も不確定なため当面据置きとしました。本市も独自に給与抑制のため定期昇給を6ヶ月延滞し、再任用嘱託・臨時職員も据置きとしました。【政策推進部】福島市公共事業評価委員会の審議結果及び対応方針として、新庁舎建設事業が継続、新斎場整備事業、水道管路耐震化等推進事業、緊急時給水拠点確保等事業が対応方針

主な補正予算

- 復興基金積立金……………193,572 (千円)
- ふるさと除染実施事業費……………13,970,000
- 飯坂消防署移転新築整備事業費……………23,000

文教福祉

【小島・渡辺・半沢・萩原】

【健康福祉部】現在、本市健康管理実施計画に基づきホールボディカウンタによる内部被ばく検査を実施しておりますが、一層の進捗を図るため放射線健康管理事業費として新たにあづま脳神経外科に検査を委託します。なお、小中学生については当初予定より7ヶ月前倒しとなり25年3月までに終了予定となりました。また、介護分野においては、地域主権一括法により条例制定権の拡大が推進され、福島市指定地域密着型サービス事業の条例を制定し、介護サービス向上の為8種類の基準が

主な補正予算

- 災害援護資金貸付金……………50,000 (千円)
- 放射線健康管理事業費……………8,830
- 障害者自立支援事業費……………289,112
- 学校施設改修費……………49,000

経済民生

【穴戸・真田・二階堂】

当委員会の所管の主な内容は次の通りです。【商工観光部】松川工業団地内に立地する企業に対し、用地取得助成金として用地取得費を助成致します。【環境部】現斎場は施設の老朽化が進み、また現在の火葬能力では、今後、高齢化社会の進展により増加が見込まれる火葬需要に対応することが困難な状況になって行くことから、斎場の建て替えを進めべく新斎場用地を取得いたします。【農政部】果樹園地の樹体洗浄等に続き、土壌の除染を実施するにあたり、樹種や土

主な補正予算

- 工業団地用地取得助成金……………170,050 (千円)
- 新斎場用地取得費……………251,186
- 東日本大震災農業生産対策(改植)事業費……………52,500
- 樹園地土壌除染実施事業費……………330,000

建設水道

【尾形・黒沢・菅田】

当委員会において提出された議案の中に「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための法律」の公布により法令を地方公共団体が参酌した上で条例に定めることとなり、それに基づき各所管部から条例制定の件について原案が示され可決されました。【建設部・都市政策部】平成25年度に東北六魂祭が福島市で開催されることに伴い、多数の来場者が見込まれる福島駅を中心とした市街地の環境整備を行うもの。街なか広場の整備として舗装を実施することに

主な補正予算

- 中心市街地環境整備課
 - ・道路管理……………150,000 (千円)
 - ・市街地整備……………25,000
- 下水道事業費特別会計繰出金……………40,000

東日本大震災復旧復興並びに原子力発電所事故対策調査特別委員会

東日本大震災と原発被害からの復旧復興対策関連の補正予算180億490万円余と次年度分除染事業費の債務負担行為補正200億円については、上記の4常任委員会に置かれた各分科会に分割され慎重なる審査が行われました。

また、休会中において詳細調査が行われてきた文教福祉分科会と総務分科会は分科会長報告がなされ、継続中の請願・陳情3件は不採択となりました。今議会において当特別委員会に付託となりました

請願「福島市に国営の総合子ども施設を設置を求める意見書提出方について」、陳情「福島市あったか・湯ったりリフレッシュ事業の再開を求めることについて」、「福島市子どもたちを放射能被害から守るための対策として甲状腺検査の説明を求めることについて」は、いずれも採択すべきものと決定いたしました。



▲荒川桜づつみ河川公園の除染

当会派提出意見書が採択!! (要約)

東京電力福島第一原子力発電所事故における 自主的避難等対象区域居住者に対する追加賠償の 拡充・延長に関する意見書 (概要)

東京電力株式会社は、平成24年12月5日、自主的避難等対象区域居住者に対する追加賠償として、慰謝料、生活費増加分及び移動費用について、月当たり1万円ないし5千円、またその終期について平成24年8月末までとする旨の方針を示しました。

しかしながら、福島市を含めた、自主的避難等対象区域の多くの地点において放射線管理区域の指定基準を超える外部線量が測定されておる等、その放射線量はいまだ高く、これが8月末を境に減少した旨の客観的事実は見受けられず、更に、我々自主的避難等対象区域に居住する住民の精神的苦痛、及び二重生活にかかる費用等を考慮に入れた場合、あまりにも低いと言わざるを得ず、誠に遺憾であります。

よって、政府においては、東京電力福島第一原子力発電所事故における自主的避難等対象区域居住者に対する追加賠償額の増並びに期間の延長が図られるよう、原子力損害賠償審査会及び東京電力株式会社に対し、速やかに働きかけを行うよう強く求めるものであります。

平成24年度 12月定例会で採択された 意見書・請願・陳情

請願	<ul style="list-style-type: none"> ● 2013年度の教育予算の拡充と教職員定数の改善を求める ● 福島市あったか・湯ったりリフレッシュ事業の再開を求める ● 福島市の子どもたちを放射能被害から守るための対策として甲状腺検査の説明を求める
陳情	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校施設における教育環境の整備を求める
意見書	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災・減災体制再構築推進基本法の制定を求める ● 2013年度の教育予算の拡充と教職員定数の改善を求める ● 福島市に国営の総合子ども施設の設置を求める

議会基本条例策定特別委員会

当委員会の開催は、9月に引き続き10月5日より第10回の12月26日まで5回開催された。これまでの主な検討事項は、「議会報告会の実施」があげられます。

考え方として、議会は市民との信頼関係を確保するため、市民への説明責任を果たし、議会活動や市政に関する情報を市民と共有しなければならぬ。そのため、議会は自ら

が地域に出向き直接市民に対し、議会で行われた議案等の審査における議論の経過や審査経過等の内容について報告する議会報告会を開催することです。

各会派の意見集約で一致を諮られ、条例(案)に盛り込むことになりました。今後市民に開かれた議会を目指し、条例制定に向け開催されます。

12月定例会一般質問 (抜粋)

今回の穴戸一照、尾形武、真田広志、白川敏明、田畝誠司の一般質問全体内容は、福島市のホームページにある「市議会」→「議会録画中継」で動画としてご覧いただけます。

福島市議会ホームページ
[http://www.city.fukushima.fukushima.jp/gikai/]の「議会録画中継」からどうぞ。

新年度予算編成について

平成25年度は、復興2年目として希望ある復興に向けて着実な進展を図るとともに、長期総合計画に掲げた各施策実施に向けた諸課題にも柔軟対応して的確な予算編成を望みますが、瀬戸市長の決意は、「対処する課題が明確になってきたので、復興に向けて大きな一歩を踏み出す年として、市民が復興を実感できる施策を見える形で進めたい」

また、「放射能に関する市民の意識調査」の結果を新年度の予算編成にどのように生かすかについては、「市民の健康管理体制・放射線の正確な情報発信・除染の実施が上位の項目であるから、きめ細かく対応します」

「市民の健康管理体制・放射線の正確な情報発信・除染の実施が上位の項目であるから、きめ細かく対応します」

米の全量全袋検査事業の迅速な検査体制を!

米の安全・安心対策のため、本市産の米の放射性物質の全量全袋検査が今年初めて実施されました。その検査状況と今後の課題として計画を伺いました。検査結果は、12月6日で97%終了し検査下限値の25ベクレル未満が30万3915袋で97.3%、食品基準値100ベクレルを超えたのは41袋で0.01%でした。春の除染対策の効果があらわれ、と期待されます。来年度以降の課題としては、農家に迷惑がからないように、迅速な検査体制が望まれます。3年計画で実施するとの予定で、来年度の栽培に向けより一層安全・安心の除染対策を継続するように要望を致しました。

米の安全・安心対策のため、本市産の米の放射性物質の全量全袋検査が今年初めて実施されました。その検査状況と今後の課題として計画を伺いました。検査結果は、12月6日で97%終了し検査下限値の25ベクレル未満が30万3915袋で97.3%、食品基準値100ベクレルを超えたのは41袋で0.01%でした。春の除染対策の効果があらわれ、と期待されます。来年度以降の課題としては、農家に迷惑がからないように、迅速な検査体制が望まれます。3年計画で実施するとの予定で、来年度の栽培に向けより一層安全・安心の除染対策を継続するように要望を致しました。

文化行政政策の在り方について

現在の教育委員会所管の文化行政は、自治体文化政策全体から見ると、現状その一部事業を分担することの域を出ず、市長部局が総合的かつ主体的に企画調整することなしに文化的な地域政策目標の実現は不可能です。教育、歴史・文化的見地のみならず都市政策的、街づくり的視点等も勘案した総合的価値観をも含め福島の(博物館構想等含め)文化行政政策における今後の考え方について当局に提言するとともに質しました。

それに対し市当局からは、今後、関係部局が相互に連携協力の上、文化行政を進める旨の見解が示されたところであり、質しました。

「東北六魂祭2013」福島開催の成功を!

地域主権改革に対する取り組みについて本市としては地方自治体における責任の改革と捉えており、市民の意見を反映できることなどメリットもあるが、委譲事務による新たな体制整備等の諸問題も発生するとのことでした。

また、来年度の東北六魂祭については、6月頃の開催に向け国交省、県や県警、商工会議所など30団体で構成する「東北六魂祭2013開催地連絡会」を設置し、情報を共有するなどして祭りの成功を目指すとのことでした。そして、高速道路利用者のために郊外に駐車場を設置し、シャトルバスも運行する計画等もあるとのことでした。

医療・介護従事者不足問題について

女性が多い職場にあって子育ての問題や不規則勤務の問題、また、非常にきつい労働の割には賃金が低いなど、従事者不足の原因についてはいろいろと考えられるところ、その対策として、潜在的有資格者の掘り起しを行いながら雇用条件の整備を進めることで職に復帰できる環境整備が大切であるとの認識でした。

また、少子高齢社会に突入した現在、365日続く医療や介護の現場はますますその重要性を増してきていることから、この問題を本市の重要な課題として位置づけ、従事者の処遇改善を含む政策的サポートを継続して行うよう強く要望しました。

行政視察

10月10・11・12日、議員研修・行政視察で松山市、尼崎市へ

全国市議会議長会 研究フォーラム(松山)

元総務大臣、片山善博氏の基調講演、次に、地方議会における政策形成の在り方、最後に南相馬市、名取市、陸前高田市の市議会議長から東日本大震災時の状況報告と質疑がありました。社会が成熟化するにつれ、地域課題は多様化し、問題解決には自治体が独自に判断し対応していかねばなりません。今後の議会および、政策形成の在り方など



▲会場は約 2700 人の参加者で満席に

について議論の必要がある等参考になりました。

要援護高齢者見守り 対策事業(尼崎)

尼崎市の取り組みは、町会内での疎遠な関係から、つながりを持つことによって万

11月13・14日、盛岡・青森へ行政視察

東北六魂祭福島開催 成功に向けて(盛岡市)

今年の福島開催において、首都圏に近いという立地から、大勢の観光客が予想されます。まず、第一には安全に開催することであり、その準備と体制づくりに総力を挙げて取り組む必要があります。経済効果の期待も大きいとともに、福島の実情を自身の目で確認

の災害から地域で助け合うことを目的にしています。その手段に見守り事業を取り入れ、社会福祉協議会が中心となり、希望者に対し週1回の訪問により様子を確認。災害等に対して当市においても日頃の体制整備が重要と再認識しました。

していただき、祭りを楽しんでもらうことが、原発事故以来の風評被害を払拭する好機となります。視察を参考にしながら、当局との連携を図り東北六魂祭の成功に努めます。

住宅リフォーム 助成事業について(青森)

青森市の2つのリフォーム助成事業は、額が小さくても実際の工事額はその十倍以上で、元の建設関係者にとっても経済効果は大きいものです。この助成制度をきっかけに、リフォームを行う要因にもなっています。しかし、2つの事業ともに恒久的なものではなく、次年度についても継続するかは不透明であり、経済対策、雇用対策としての側面と、一方で市民の不平等感を生じさせないためにも短期間の助成に終わらないようにするなど、課題については更に検討の必要があります。

研修報告

平成24年度 会派議員研修 現地へ足を運び実態調査



▲パークゴルフ場予定地視察

市内南部を中心に、パークゴルフ場整備予定地、信夫支所・学習センター、景観に富んだ城山公園、クレール射撃場等、重要な施設を数箇所現地調査いたしました。今後、整備される公認パークゴルフ場は平成27年に供用開始予定ですが、市内外から多くの利用者が訪れるよう、そのあり方について十分検討し提言をして参りたいと思います。

真田 広志

副会長 経済民生常任委員 議会運営委員 議会基本条例策定 特別副委員長 松浪町 1-15 TEL: 526-3201

宍戸 一照

副会長 経済民生常任委員 議会基本条例策定 特別委員 荒井字上町裏 10 TEL: 593-1035

渡辺 敏彦

顧問 副議長 文教福祉常任委員 松川町字青麻山 3 TEL: 567-2660

小島 衛

顧問 文教福祉常任委員 太田町 14-2 TEL: 535-1731

中野 哲郎

会長 総務常任委員長 飯坂町八幡 新田 11-1 TEL: 542-9111

誉田 憲孝

幹事会委員 建設水道常任委員 本内字西畑 4-6 TEL: 553-7030

田畝 誠司

幹事会委員 総務常任委員 さくら 3-1-10 TEL: 593-0919

白川 敏明

幹事会委員 総務常任委員 議会運営委員 議会基本条例策定 特別委員 飯坂町字中原 36 TEL: 542-4041

黒沢 仁

幹事長代行 建設水道常任委員 議会運営副委員長 議会基本条例策定 特別委員 飯野町大久保字 谷津 44 TEL: 562-3582

尾形 武

幹事長 建設水道常任委員 議会基本条例策定 特別委員 松川町浅川字 大古内 9 TEL: 548-7683

二階堂 武文

政調会委員 経済民生常任委員 町庭坂字内町 51-2 TEL: 591-1138

萩原 太郎

政調会委員 文教福祉常任委員 議会運営委員 議会基本条例策定 特別委員 山口字下屋敷 28-2 TEL: 535-4693

小松 良行

政調会長代行 総務常任委員 震災・原発対策 特別委員会理事 瀬上町字東町 2-6-10 TEL: 553-0647

半沢 正典

政務調査会長 文教福祉常任委員 議会運営委員 議会基本条例策定 特別委員 上鳥渡字寺北 28-3 TEL: 593-5256

編集後記

いよいよ「東北六魂祭」福島開催まで半年を切った。仙台・盛岡に続く3回目。今回は、首都圏から多くの誘客が見込まれる。市民と共に祭りを楽しみ、復興3年目の福島を感じ取りたい。風評被害払拭の好機と捉え盛上げたい。